

日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所
162-0805 東京都新宿区矢来町 65
電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175
発行者 総主事 司祭 矢萩新一

「富を受け継ぐ者として」

—み心にかなう大齋節を過ごすために—

管区事務所総主事 司祭 エッセイ 矢萩新一

「あなたの富のあるところに、あなたの心もあるのだ。」

(マタイ6:21)

今年は例年よりも早く大齋始日を迎えました。冒頭の聖句は、大齋始日(灰の水曜日)の福音書の言葉です。

わたしの「富」とは何でしょうか。言い換えると、わたしたちが、何に幸せや価値・豊かさを感じているか、どこに関心を抱いているか、ということではないでしょうか。

マタイ5章の山上の説教で語られる「幸い」がヒントです。「心の貧しい人々、悲しむ人々、柔和な人々、義に飢え渴く人々、憐れみ深い人々、心の清い人々、平和を実現する人々、義のために迫害される人々」は幸いであるとイエスさまは教えられます。その人々は天の国を受け、慰められ、地を受け継ぎ、満たされ、憐れみを受け、神を見、神の子と呼ばれ、天の国を受けると言われます。

心の貧しさや悲しみ、義の為に迫害されることは決してマイナスなことではなく、神さまのみ心を知る近道です。柔和で、義を求め、憐れみ深く、心清く、平和を実現することは、神さまのみ心にかなうことです。

教会につながり、自らの心が豊かになることは、わたしたちの大きな富となるでしょう。洗礼を受け、富を受け取ったわたしたちは、イエスさまの教えてくださった幸せを体現するために遣わされています。わたしたちがイエスさまの価値観、幸いに生きようとするのが、イエスさまの十字架と復活の命にあずかることです。十字架と復活のイエスさまを見つめることは、敗北が勝利をもたらす、弱さの中に強さがあるという、わたしたちの信仰の要だと思ふのです。

意義のある大齋節を過ごして参りましょう。

□会議・プログラム等予定

(2月25日以降および
前回報告以降追加分)

2月

- 26日(金) ~ 27日(土) 各教区ハラスメント防止・対策担当者会〔大宮聖愛教会〕
- 27日(土) 正義と平和・憲法プロジェクト〔中部教区センター〕

3月

- 2日(水) 聖公会／ルーテル教会協議会〔管区事務所〕
- 3日(木) 女性の聖職に関わる特別委員会〔管区事務所〕
- 3日(木) 教役者遺児教育基金・建築金融資金運営委員会〔管区事務所〕
- 3日(木) 原発問題プロジェクト〔郡山〕
- 7日(月) 礼拝委員会〔管区事務所〕
- 7日(月) 主事会小会議〔管区事務所〕
- 8日(火) ~ 10日(木) 管区共通聖職試験
- 8日(火) 収益事業委員会〔管区事務所〕
- 9日(水) 聖公会／ローマカトリック教会合同委員会〔管区事務所〕
- 9日(水) 正義と平和・日韓協働プロジェクト合同会議〔管区事務所〕
- 10日(木) 年金委員会および年金維持資金管理委員会〔管区事務所〕
- 11日(金) 東日本大震災5周年記念礼拝〔仙台基督教会〕
- 14日(月) 神学教理委員会〔管区事務所〕
- 15日(火) 正義と平和・沖縄プロジェクト〔沖縄教区センター〕
- 16日(水) 財政主査会〔管区事務所〕
- 17日(木) 主事会議〔管区事務所〕
- 29日(火) 聖職試験委員会〔管区事務所〕
- 31日(木) 文書保管委員会〔管区事務所〕

(次頁へ続く)

❖ 3月25日(金)は受苦日礼拝のため、管区事務所業務をお休みいたします。よろしく願いいたします。

(前頁より)

31日(木) 主事会議小会議〔管区事務所〕

4月

6日(水) 管区会計監査〔管区事務所〕

13日(水) 人権担当者会〔管区事務所〕

14日(木) 常議員会〔管区事務所〕

25日(月) 正義と平和委員会〔京都〕

<関係諸団体等会議・他>

2月29日(月) 聖公会神学院交友会総会・卒業式〔聖公会神学院〕

3月14日(月)～24日(木) 国連女性の地位委員会(UNCSW60)〔アメリカ/ニューヨーク〕

15日(火) マイノリティと宣教国際会議フォローアップ会議〔早稲田〕

15日(火) 日宗連事務局幹事会〔増上寺〕

31日(火) 聖公会出版臨時株主総会〔管区事務所〕

4月6日(水) ウィリアムス神学館入学式〔京都教区主教座聖堂〕

7日(木)～20日(水) 全聖公会中央協議会(ACC16)〔ザンビア/ルサカ〕

11日(月) キリスト者平和ネット運営委員会〔富坂〕

18日(月)～22日(金) アジアキリスト教協議会(CCA)アジア神学者会議〔インド〕

20日(水) NCC 常議員会〔早稲田〕

22日(金) 日キ連総会〔潮見〕

議題:(1) 2015年度日本聖公会大阪教区会計決算承認の件 (2) 2015年度日本聖公会大阪教区一般会計余剰金処理の件 (3) 2016年度日本聖公会大阪教区一般会計補正予算(案)承認の件

神戸・九州・沖縄 3教区協働プログラム

・2016 フィリピンワークキャンプ 2月22日(月)～29日(月) 内容:教会をベースにしたワーク、教会訪問・交流、主日礼拝出席など。今年は8名のキャンパー(神戸5名・九州2名・沖縄1名)で、ワーク、交流、ホームステイを通してみなそれぞれ互いに応えあう豊かな一週間を過ごすことになる。

<九州教区・教区事務所だより2016年2月>

□神学校**聖公会神学院**

・第22回(2015年度)聖公会神学院短期集中講座 『歴史の現場からの「語り」～戦後70年と宣教・牧会の検証』

<日程・内容と講師>

*第1回 2月17日(水) I:10時半～12時
II:14時～15時半 講師:森元美代治(IDEA ジャパン主宰)「ハンセン病を生きて～尊厳回復の願いと私の闘い」と「戦後70年～ハンセン病の変遷について」

*第2回 2月18日(木) I:10時半～12時
II:14時～15時半 講師:金永泰(社会福祉法人サワリ代表)「第30回臨床牧会訓練における問題提起」とその後の歩みから

*第3回 2月19日(金) I:10時半～12時
II:14時～15時半 講師:花崎皋平(社会思想家・哲学者)「戦後70年～政治・社会・思想文化の歩みとこれから」と「敗戦後70年～民衆思想中心に」

□訂正

2016年1月25日発行『管区事務所だより』の《人事》大阪 信徒奉事者認可(東豊中聖ミカエル教会)は、(正)若本真紀←(誤)岩本真紀でした。

□各教区**北関東**

・北関東教区「信徒一致の日」合同礼拝 2016年5月4日(水・休)11時～ 国立療養所栗生楽泉園内中央会館 草津におけるハンセン病患者への働き、聖バルナバミッション開始100周年を記念して

東北

・東日本大震災5周年記念聖餐式・午後2時46分の黙想 3月11日(金)13時 東北教区主教座聖堂・仙台基督教会 司式:東北教区主教 主教加藤博道 説教:大韓聖公会首座主教 主教金根祥 臨席:首座主教ならびに、日本聖公会各教区主教

大阪

・第116(臨時)教区会 3月20日(日)15時 大阪教区主教座聖堂(川口基督教会)会館

† 逝去者 霊魂のパラダイスにおける光明と平安
を祈ります。



司祭 パウロ梅本芳哉（東京教区・退職）2016
年2月23日（火）逝去（83歳）

《人 事》

北関東

司祭 サムエル輿石 勇	2016年3月31日付	川越基督教会嘱託勤務を解く。
	2016年4月1日付	前橋聖マッテア教会および新町聖マルコ教会 嘱託勤務を委嘱する。
司祭 ヤコブ八戸 功	2016年4月1日付	川越基督教会管理牧師を任命する。
司祭 アンデレ斎藤英樹	2016年3月31日付	栃木聖アルバン教会嘱託勤務を解く。
	2016年4月1日付	川越基督教会嘱託勤務を委嘱する。
司祭 ガブリエル西海雅彦	2016年3月31日付	立教学院出向を解く。
	2016年4月1日付	栃木聖アルバン教会牧師および宇都宮聖ヨハ ネ教会管理牧師に任命する。
司祭 パウロ矢萩栄司	2016年3月31日付	宇都宮聖ヨハネ教会管理牧師の任を解く。
司祭 マタイ金山昭夫	2016年3月31日付	前橋聖マッテア教会牧師および新町聖マルコ 教会管理牧師の任を解く。
	2016年4月1日付	立教学院出向を命ずる。
主教 ゼルバベル広田勝一	2016年3月31日付	栃木聖アルバン教会管理牧師および川越基 督教会管理牧師を解く。
	2016年4月1日付	前橋聖マッテア教会および新町聖マルコ教会 管理牧師を任命する。

東京

司祭 クリストファー・ダビデ大郷 博	2016年3月31日付	定年により退職とする
司祭 ハンナ石坂みゑ子	2016年3月31日付	日本聖公会北海道教区への出向命令を解く。
	2016年4月1日付	日本聖公会北海道教区への移籍を許可する。
司祭 ドミニカ朴 美賢	2016年3月31日付	聖救主教会牧師解任
	2016年4月1日付	休職を許可する
司祭 ヨナ成 成鐘	2016年3月31日付	渋谷聖公会聖ミカエル教会牧師解任
	2016年4月1日付	大森聖アグネス教会管理牧師解任
	2016年4月1日付	留学を許可する
司祭 マッテヤ大森明彦	2016年3月31日付	浅草聖ヨハネ教会牧師解任
	2016年4月1日付	立教女学院への出向を命じる
司祭 フランシス下条裕章	2016年4月1日付	大森聖アグネス教会牧師任命
司祭 マリア・グレイス笹森田鶴	2016年4月1日付	渋谷聖公会聖ミカエル教会牧師任命
司祭 アンデレ香山洋人	2016年4月1日付	神愛教会牧師任命

		神田キリスト教会副牧師任命
司祭 パウロ中村 淳	2016年4月1日付	聖救主教会牧師任命
		浅草聖ヨハネ教会副牧師任命
司祭 シモン・ペテロ上田憲明	2016年4月1日付	浅草聖ヨハネ教会管理牧師任命
		聖路加国際大学聖ルカ礼拝堂副牧師任命
司祭 スティーブン・クロフツ	2016年3月31日付	東京聖十字教会勤務命令を解く
	2016年4月1日付	東京聖十字教会副牧師任命
司祭 ダビデ市原信太郎	2016年4月1日付	中部教区より出向受け入れ、聖アンデレ主教座聖堂付とする
		住居は大森聖アグネス教会牧師館とする
		毎月一回(主日)岡谷聖バルナバ教会での礼拝奉仕を認める
執事 ヨセフ太田信三	2016年4月1日付	渋谷聖公会聖ミカエル教会牧師補任命
司祭 アンデレ橋本克也(退)	2016年4月1日付	池袋聖公会嘱託を委嘱する(任期1年)
司祭 ヨハネ山口千壽(退)	2016年4月1日付	聖マーガレット教会嘱託を委嘱する(任期1年)
司祭 バルナバ関 正勝(退)	2016年4月1日付	聖路加国際大学聖ルカ礼拝堂嘱託を委嘱する(任期1年)
司祭 ビスカテス今井烝治(退)	2016年4月1日付	聖アンデレ主教座聖堂嘱託(八王子地区ミッシヨナー)を委嘱する(任期1年)
司祭 イサク小笠原愛作(退)	2016年4月1日付	小笠原聖ジョージ教会嘱託を委嘱する(任期1年)
司祭 テモテ小笠原 忍(退)	2016年4月1日付	聖アンデレ教会嘱託を委嘱する(任期1年)
司祭 テモテ河野裕道(退)	2016年4月1日付	環状教会グループ担当の嘱託を委嘱する(任期1年)
執事 アンデレ小野里俊一(退)	2016年4月1日付	聖アンデレ教会嘱託を委嘱する(任期1年)
執事 トマス日高馨輔(退)	2016年4月1日付	聖アンデレ教会嘱託を委嘱する(任期1年)
中部		
ヨハネ相原太郎	2016年1月18日付	日本聖公会聖職候補生に認可する。
司祭 ジュールス・ゴロカン	2016年2月1日付	フィリピン聖公会北中央教区から出向を受け入れ、主教ペテロ渋澤一郎管理のもと、可見聖三一教会で勤務することを命ずる。(任期3年)
司祭 ダビデ市原信太郎	2016年3月31日付	学校法人立教学院への出向を解く。
	2016年4月1日付	日本聖公会東京教区への出向を命ずる。
大阪		
司祭 ペテロ井上進次	2016年2月1日付	逝去(1月26日)に伴い、4月1日付で大阪聖愛教会牧師ならびに大阪城南キリスト教会管理牧師に任命するとの辞令を解く。
司祭 施洗者ヨハネ山本 眞	2016年2月1日付	尼崎聖ステパノ教会管理牧師に任命する。
主教 サムエル大西 修(退)	2016年4月1日付	主教アンデレ磯晴久のもと、富田林聖アグネ

		ス教会及び恵我之荘聖マタイ教会において 嘱託司祭として勤務することを委嘱する。(任 期1年)
司祭 ペテロ齊藤 壹(退)	2016年4月1日付	主教アンデレ磯晴久のもと、大阪聖三一教会 および大阪聖愛教会において嘱託司祭として 勤務すること、ならびに司祭ペテロ岩城聰の もと聖ガブリエル教会で嘱託司祭として主日 勤務することを委嘱する。(任期1年) 博愛社(こひつじ乳児保育園)チャプレン、聖 バルナバ病院チャプレンに任命する。(任期1 年)
司祭 ヨハネ奥 康功(退)	2016年4月1日付	主教アンデレ磯晴久のもと大阪聖愛教会にお いて、司祭ペテロ竹林經一のもと聖ルシヤ教 会において、嘱託司祭として主日勤務するこ とを委嘱する。(任期1年)
司祭 ヨハネ木村幸夫(退)	2016年4月1日付	司祭施洗者ヨハネ山本眞のもと西宮聖ペテロ 教会および尼崎聖ステパノ教会において、嘱 託司祭として主日勤務することを委嘱する。 (任期1年)
司祭 ウイリアムス竹内信義(退)	2016年4月1日付	司祭ジョイ千松清美のもと石橋聖トマス教会 および庄内キリスト教会において、嘱託司祭と して主日勤務することを委嘱する。(任期1年) プール学院の要請に基づき、同学院(大学) チャプレンとして派遣する(水・木曜日)。(任期 1年)
司祭 サムエル坪井克己(退)	2016年4月1日付	司祭ヤコブ義平雅夫のもと大阪聖アンデレ教 会において嘱託司祭として主日勤務するこ とを委嘱する。(任期1年)
司祭 サムエル松岡虔一(退)	2016年4月1日付	主教アンデレ磯晴久のもと富田林聖アグネス 教会、恵我之荘聖マタイ教会および大阪聖愛 教会において嘱託司祭として主日勤務するこ とを委嘱する。(任期1年)
司祭 ペテロ松山龍二(退)	2015年4月1日付	司祭ペテロ岩城聰のもと聖ガブリエル教会お よび大阪城南キリスト教会、司祭ヨハネ古澤 秀利のもと高槻聖マリヤ教会において、嘱託 司祭として主日勤務することを委嘱する。(任 期1年)
司祭 ダニエル山野上素充(退)	2015年4月1日付	司祭ジョイ千松清美のもと庄内キリスト教会、 司祭ジョージ林正樹のもと大阪聖パウロ教会 において嘱託司祭として勤務することを委嘱 する。(任期1年)

聖職候補生 ペテロ金山将司	2016年4月1日付	尼崎聖ステパノ教会勤務を命じるとの辞令を解き、主教アンデレ磯晴久の指導のもと、大阪聖愛教会勤務を命じる。
主教 アンデレ磯 晴久	2016年4月1日付	大阪聖愛教会管理牧師に任命する。
司祭 ペテロ岩城 聡	2016年4月1日付	大阪城南キリスト教会管理牧師に任命する。
司祭 金 アンデレ	2016年4月1日付	司祭ペテロ竹林徑一のもと、聖ルシヤ教会において副牧師として勤務することを命じる。 プール学院(大学)の要請により、チャプレン補として週5日勤務することを命じる。(月・火・水曜日は大学短大、水曜日は大学短大と中高隔週、金曜日は中高)。

神戸

聖職候補生パウロ歳實 勲	2016年2月17日付	願いにより日本聖公会聖職候補生の認可を取り消す。
--------------	-------------	--------------------------

《教会・施設》

双葉幼稚園(横浜)	2016年4月1日付	佐藤佐由里を園長に任命する。
-----------	------------	----------------

台湾大地震被災支援のお願い

現在、台湾聖公会からの正式な支援要請は届いていませんが、NCCから支援募金案内が届きましたので、お知らせいたします。それぞれにご判断いただき、支援募金を送金くださる場合は、NCCへ直接ご送金くださいますようお願いいたします。

日本聖公会管区事務所 総主事

NCC 支援募金アピール

募金期間：2016年3月31日まで
郵便振替：00180-4-75788
加入者名：日本キリスト教協議会
通信欄に「台湾大地震被災者支援」とご記入ください。

日本キリスト教協議会 (NCC)
〒135-0016 東京都江東区東陽 2-3-1 1F 東陽町 216 室
TEL 03-6666-8760 FAX 03-6666-8766
E-mail: general@ncc-j.org

2016年 正義と平和担当者会を開催

—「今、を感じた「現地からの」発信—

2月11日(木)～12日(金) 牛込聖公会聖バルナバ教会にて

開催日初日に当たる2016年2月11日は、日本聖公会組織成立129周年の日でした。また、この日は東日本大震災5周年のひと月前に当たります。被災地を覚え震災発生の時刻に合わせて全員で祈りました。

「正義と平和担当者会」という大きな名を戴くこの集まりが人権、平和など取り上げる課題の重要性はますます増しつあるように思えます。

最初に各教区担当者により、それぞれの教区の「正義と平和」に関わる取り組みの報告と情報の交換をいたしました。組織的に動くことのできる教区、まだ組織としての活動が不十分な教区など、担当者同士の思いを分かち合うことが出来ました。

公開の講演会は「福島は今、沖縄の今」と題して、福島と沖縄の現在を講師に語っていただきました。夜の講演にもかかわらず、委員以外の信徒、教役者・信徒の多数の参加があり総勢50名余りの盛会で、原発や基地への関心の高さを感じます。

「福島は今」は、震災後、被災者支援センターしんち・がん小屋に関わっておられる、憲法プロジェクトの高木栄子さんの講演でした。原発と人との共存は出来ない現実を話され、原発事故により命と環境が日々脅かされ、子どもたちが安心して暮らせる場所が破壊されている現状や、仕事を奪われて仮設住宅に住んでいる人々が孤立して行くと語りました。そして、多くの方が現地に足を運んで、福島は今を忘れることなく、寄り添っていただきたいと話され、経済優先の考え方から決して平和は生まれることはないと言われました。

もう一方の「沖縄の今」の発題は、沖縄教区の高良孝太郎司祭にお願いいたしました。高良司祭は幾度となく辺野古へ足を運んで、住民とともに基地建設阻止を支援しています。また、管区事務所のホームページにも辺野古の状況を報告

してくださっております。辺野古の新基地建設反対運動について、この基地の建設は沖縄の人々を分断するもので、辺野古の基地は、移設ではなく新しい基地の建設であり、沖縄にこれ以上基地は要らないと話されました。

琉球王国時代から「万国津梁」(バンコクシリョウ)の精神を持つ沖縄県民は、人の繋がりで国造りをしてきました。例えば、城(ゲスク)は戦いのためではなく、外国の人をもてなすための城であり、また祈りの場所でもあったのです。

しかし、基地は人の繋がりを分断します。国のやり方は、民意を無視します。沖縄のことは沖縄で決めたいのです。高良司祭は辺野古に座り込んでいる人々の中に、人の子イエスがおられるのを感じ、自身の聖書の読み方に変化が生まれていると述べられました。

二つの講演は、それぞれの現場からの発信であり、まさに今を感じる事が出来、深く考えさせられるものでした。

第2日目に行なわれた各プロジェクト(ジェンダー、日韓協働、憲法、沖縄、死刑制度廃止関連、環境)の報告は、大変示唆に富むものでありました。

- ◆ 人は出会うことが大切で、想像だけでは本当の姿はわからない。そのことで隣人への配慮が出来るようになる。
- ◆ 「子どもの貧困」について取り上げる必要がある。
- ◆ 憲法についても考えるための材料を提供しなければならない。
- ◆ 同時中継など新しい技術による発信を検討すべきである。
- ◆ 外国人技能実習生の人権など、分かち合われた事柄を教区に持ち帰り、取り上げ、具体化して、これからの活動の力としたいと思います。

(管区宣教主事 マルコ 谷川 誠)

「アメリカ聖公会・救援と開発局 (ERD)」の総裁、 ロバート・ラドキ氏が来日

Episcopal Relief and Development (ERD) はアメリカ聖公会で1940年に第一次世界大戦の難民救済のための総裁主教基金(PBFWR)として創設され、昨年で75年を迎えた組織です。アメリカ聖公会の中で災害救援活動やコミュニティ開発の活動を担っています。

2011年3月11日の東日本大震災の被災者支援活動のために、3年間にわたり82万ドル(約7,000万円弱)の資金援助をいただきました。

その最高責任者であるロバート・ラドキ氏が2月13日から17日にかけて来日され、仙台や南相馬、新地町などをポール・トルハースト司祭(管区渉外主事)とともに視察されました。

東北教区の支援室担当デスクをはじめ、カトリックの南相馬の原町カリタスペースのみなさま、がん小屋仮設のみなさま、東北教区の主教さまや信徒・教役者のみなさまが温かく迎え入れ、ご案内くださり、心から感謝いたします。

特に、新地町のがん小屋での被災者のお話、富岡町や南相馬の津波被害のいまだに残されている生々しい爪痕を目の当たりにし、原発事故の

甚大さを痛感されたようです。来日前には、ミャンマーも訪問され、2週間にわたる視察だったそうです。緊急災害援助として資金提供するだけでなく、自らの足で現地を訪れ、目で見て、肌で感じて状況を把握しようとする姿に敬服いたします。

最終日には管区事務所にもお寄りくださり、植松首座主教とも面談し、無事に成田からアメリカに帰国されました。お支えくださったすべての方々に感謝しつつ報告させていただきます。

(管区事務所総主事 司祭 矢萩新一)



写真：左から ERD 総裁・首座主教・渉外主事

日韓協働合同会議を終えて

管区宣教主事 マルコ 谷川 誠

昨年12月初めのソウルは、天候が悪く寒い韓国行きでした。私たちは会議の前日にソウル入りして、大韓聖公会の関わる社会宣教活動の現状を見学しました。野宿者のためのタシソギ総合支援センターやソウル駅応急待避所など、重要な働きにトップで大韓聖公会の司祭が就任していることに驚きました。これらの活動を担う方々が「物的支援はもとより、心の支援が大切なのだ」との言葉に改めて人への想いの強さを感じ入りました。

翌日の12月3日会議当日は雪降りでした。会

議に先立ち韓国側の申し出もあり、日韓協働に尽力され昨年9月に急逝されたテモテ野村潔司祭の追悼礼拝を小礼拝堂で行い魂の平安を祈りました。

会議の会場はソウル大聖堂敷地内にある別棟の美しい会議室です。会議の冒頭、ソウル教区の金根祥主教は、「2015年1月に日本に行った時は大雪で、ホテルから空港に行くのに大変な苦勞をした。この雪はその時のリベンジですよ」と笑いをさそい、和やかな雰囲気会で会議は進められました。

報告では、日韓青年交流が中国で行なわれ、ロシア、中国、北朝鮮の国境地域に行なって朝鮮戦争の痛みを共有したことが、戦後70周年を覚えて、日韓の和解をめざす日本のそれぞれの行事に韓国の主教、司祭、オモニ聖歌隊、子どもたちなど多くの参加があったことが語られました。

討議では、仙台で行なわれる東日本大震災5周年記念礼拝に金主教が出席すること、大韓聖公会福祉施設協議会



と日本聖公会社会福祉連盟との交流を推進すること、9月に北海道で開催される日本聖公会全国青年大会に、韓国の青年の参加を受け入れることが決まりました。

また、日本であまり理解されていないTOPIK（北朝鮮に対する人道支援活動）の活動報告を日本聖公会総会ですることや、日韓が共通する米軍基地の問題を継続的に検討することが協議されました。

日韓協働30周年に出された共同声明についての検証では、女性の交流をもっと盛んにするため、両国の女性の置かれている状況を理解して、お互いの違いを認識しながらどのような交流をして行くのか、窓口を置いての具体的な活動を目指したいと話し合いました。

短時間で多くの課題を討議することの難しさを感じながらの会議でありましたが、会議終了後、ソウル大聖堂のホールでは聖ニコラス日を記念して、司祭がサンタクロースになり、生活に困っている人たちにプレゼントをするためのキムジャン（親戚、友人が集まってキムチを漬ける行事・ユネスコ/無形文化遺産に登録）が行なわれておりました。

広いホールに各教会から集合した大勢の司祭、信徒が一斉にキムチを漬け始めます。この日、4000株もの白菜が漬けられ、招かれた私たちがエプロン、マスク、手袋、帽子をつけての

日韓協働合同会議・野村潔司祭の追悼礼拝を行なった。

参加です。用意された唐辛子色したキムチの素のようなものを、白菜の葉の間に一枚一枚詰めていくのです。「もっと丁寧にしないと美味しくないよ!」とオモニの厳しい指導を受けながらの楽しいひと時でした。その後、この大量のキムチがどのようにしてプレゼントされていくのか、興味の尽きない伝統行事です。



キムチ作りの様子

日韓お互いの違いを尊重し合い、信頼の積み上げこそが何よりも大切なことなのでしょう。私たちは見たこと、感じたことを少しでも多くの方々に伝えることが務めなのだと思いました。

(写真は谷川主事)

■編集室から

2016年「日本聖公会正義と平和担当者の集い」が2月11日～12日にわたって開催されました。管区・正義と平和委員会委員長、洪澤一郎主教による開会の挨拶「信仰を支える基盤はイエス様の正義と平和に在る」を承けて、正義と平和に関わる多様な問題に取り組む各教区の活動と情報の交換が活発に話し合われ、今年も実り多い会議でありました。この集いには11教区の正義と平和担当者、管区正義と平和委員会（洪澤一郎主教ほか諸委員）、講演講師、管区総主事・主事が出席しました。

会議の全容は管区宣教主事谷川誠氏が『管区事務所だより』本号で報告されております。特記したいのは、第1日の夜に行なわれた講演「福島の今」（高木栄子氏）、「沖縄の今」（高良孝太郎司祭）が、気迫と信念に支えられて発信された、現地の「今」を痛感させる具体性に満ちた内容であったことです。

環境大臣が年間被曝線量1ミリシーベルトについて「何の根拠もない」などとの発言をあわてて撤回したり、沖縄北方担当大臣が守備領域の「歯舞」を読めなかつたりして政治の怠慢を感じさせられる今日の状況にあって、福島の被災者支援センターで活動する高木さんが語った原発事故のもたらした環境破壊の実情はまさに「福島の今」を刻みつけるものでした。また、高良司祭が「沖縄の今」を語る結びで、「辺野古新基地建設阻止闘争は、自治権の回復・人権の回復を通して琉球王国精神の回復につながるものであるが、自分はこの闘争を通して聖書の見方が変わってきた。ヘブライ人への手紙2章18に『御自身、試練を受けて苦しまれたからこそ、試練を受けている人たちを助けることができになるのです。』と記されているそのお姿が、辺野古の映像に重なるようになった。」という趣旨のことを述べられたのが強く胸に残りました。

この講演には聴衆が会場に満ち、特に東京教区からの聖職・信徒、また横浜教区から主教・司祭・信徒多数の出席を得て、日本聖公会の正義と平和を担う輪のつながりが更に広がったことを記します。

（管区事務所広報主事・鈴木 一）

□『管区事務所だより』購読の御案内

日本聖公会の宣教理念と管区・教区の実践活動、また海外の聖公会の動向を毎号の誌面で的確にお伝えする広報誌『管区事務所だより』の購読についてのお問い合わせが増えておりますので、誌面を借りて御案内いたします。本誌は原則として年に10回発行、1年分の購読料は1,000円です（特別増刊号なども含む）。複数年分まとめてお支払いいただく場合は¥1,000の倍数にてお振込み願います。

なお、教会によっては教会委員の人数分をまとめてお申し込みくださる向きもだんだんと増えております。複数の部数を一括して御注文いただく場合には、1人1年¥500×人数分にて計算し、お申し込みください。発行の都度まとめて教会宛にお届けします。購読料の振込み等については、管区事務所宛に電話にてお問い合わせください。 電話：03-5228-3171

■立教学院奨学金についてのお知らせ

立教学院では、1998年度に「聖公会教役者の子及び聖公会神学院校長の推薦する大学院学生に対する立教学院奨学金規程」を制定し、聖公会教役者の子である立教学院各学校の児童・生徒・学生に対し、奨学金を交付しております。交付は1年間で、次年度以降も申請できます。

各校の申請期間・対応窓口は次の通りです。

大学・大学院	…4/1～4/30	財務部経理課
新座中高・池袋中高	…4/1～4/30	事務室
小学校	…4/1～4/28	事務室

※窓口業務時間内のみ対応。期間厳守。

お問い合わせ：立教学院（03-3985-2752）

< 首座主教会議からのコミュニケ抜粋 >

2016年1月15日（金）

『共に歩み出そうーこの世界における神のみ業のために』

ジャスティン・ウェルビー (Justin Welby) カンタベリー大主教の招待により、38の聖公会諸管区の首座主教たちの会議が、北米聖公会 (Anglican Church of North America) 大主教も参加して、カンタベリーにおいて、1月11日（月）から1月15日（金）にかけて開催されました。初日の朝は、祈りと断食の内に過ごしました。

私たちは、2016年の首座主教会議が、人間のセクシュアリティの問題についての教えに関する、私たちの間にある違いに関わることになろうと思いつつ集まりました。私たちはまた、幅広い領域の事柄について語り合おうとしました。

まず会議は、議題について合意を得るところから始まりました。最初に合意されたのは、聖公会の中で世界大の論争となっている重要な論点を議論することでした。すなわち、米国聖公会が最近、結婚の教理を変更したことについてです。

週を通して首座主教たちが下した全員一致の決定は、痛みが伴うことではありましたが、私たちの間にある違いにも拘わらず、キリストの体における一致を深いところで表すものとして、私たちは共に歩む、ということでした。

私たちは、いかにアングリカン・コミュニオンの諸教会が共に歩むことができ、私たちの一致を強めることができるのかという課題を託され

た、首座主教のメンバーからなるワーキング・グループからの勧告 (recommendation) を受け取りました。ワーキング・グループの勧告は、従前の首座主教会議の諸声明を首尾一貫させた時に、米国聖公会の結婚の教理についての最近の変更というものが、米国聖公会のアングリカン・コミュニオンとの関係に対してどのような帰結 (consequences) をもたらすのかを述べるものとなりました。「補遺 A」の第7、第8にある勧告は、以下の通りです。

「共に歩みたいというのは、私たちの一致した願いである。しかしながら、これらの事柄の深刻さに鑑み、向こう3年間、米国聖公会は、もはや、エキュメニカル、および宗教間の協議体において、私たちを代表しないし、アングリカン・コミュニオン内の常置委員会を構成する者として任命されたり、選出されたりするべきではなく、アングリカン・コミュニオン内の協議体に参加する場合も、米国聖公会は、教理や教会行政に関するあらゆる課題についての意思決定に加わることはない、ということを求めることによって、この隔たりが存在することを、私たちは公式的に承認するものである。」

(以下 略)

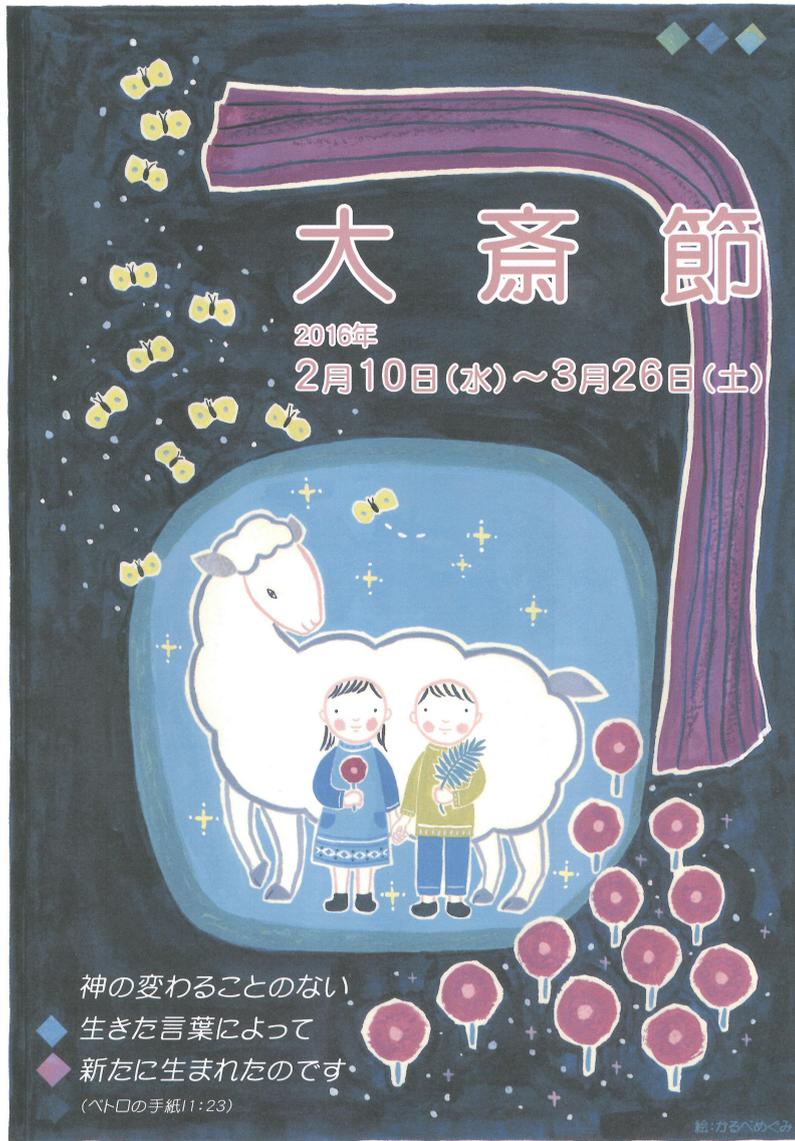
(日本語訳：西原廉太司祭)

★ コミュニケの全文は管区ホームページに掲載されています。

管区事務所だより・1月掲載の「聖公会首座主教会議に参加して」(植松誠首座主教執筆) と合わせてお読みください。

聖公会生野センターのための主日





絵:かるべめぐみ

日本聖公会管区事務所ホームページ <http://www.nskk.org/province/>
☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメールでお寄せください。